



平成25年3月期 第1四半期決算短信〔日本基準〕(連結)

平成24年7月31日

上場取引所 東

上場会社名 キョーリン製薬ホールディングス株式会社
コード番号 4569 URL <http://www.kyorin-gr.co.jp>

代表者 (役職名) 代表取締役社長 (氏名) 山下 正弘

問合せ先責任者 (役職名) 上席執行役員 (氏名) 伊藤 洋

TEL 03-3293-3420

四半期報告書提出予定日 平成24年8月10日

配当支払開始予定日 —

四半期決算補足説明資料作成の有無 : 有

四半期決算説明会開催の有無 : 無

(百万円未満切捨て)

1. 平成25年3月期第1四半期の連結業績(平成24年4月1日～平成24年6月30日)

(1) 連結経営成績(累計)

(%表示は、対前年同四半期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		四半期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
25年3月期第1四半期	25,422	2.5	4,080	△0.5	4,351	1.2	2,838	5.2
24年3月期第1四半期	24,809	0.6	4,100	85.0	4,300	77.6	2,697	49.9

(注) 包括利益 25年3月期第1四半期 3,086百万円 (6.7%) 24年3月期第1四半期 2,892百万円 (62.3%)

	1株当たり四半期純利益	潜在株式調整後1株当たり四半期純利益
	円 銭	円 銭
25年3月期第1四半期	38.00	—
24年3月期第1四半期	36.10	—

(2) 連結財政状態

	総資産	純資産	自己資本比率
	百万円	百万円	%
25年3月期第1四半期	148,133	118,671	80.1
24年3月期	145,673	118,201	81.1

(参考) 自己資本 25年3月期第1四半期 118,671百万円 24年3月期 118,201百万円

2. 配当の状況

	年間配当金				
	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	期末	合計
	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭
24年3月期	—	10.00	—	35.00	45.00
25年3月期	—	—	—	—	—
25年3月期(予想)	—	10.00	—	40.00	50.00

(注) 直近に公表されている配当予想からの修正の有無 : 無

3. 平成25年3月期の連結業績予想(平成24年4月1日～平成25年3月31日)

(%表示は、通期は対前期、四半期は対前年同四半期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		当期純利益		1株当たり当期純利益
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	円 銭
第2四半期(累計)	47,700	2.8	5,600	14.3	6,000	14.2	3,900	16.2	52.20
通期	104,700	1.4	17,900	23.8	18,500	21.1	11,800	27.8	157.92

(注) 直近に公表されている業績予想からの修正の有無 : 無

※ 注記事項

(1) 当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動(連結範囲の変更を伴う特定子会社の異動) : 無
新規 一社 (社名) 、 除外 一社 (社名)

(2) 四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用 : 無

(3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示

- ① 会計基準等の改正に伴う会計方針の変更 : 有
- ② ①以外の会計方針の変更 : 無
- ③ 会計上の見積りの変更 : 有
- ④ 修正再表示 : 無

(注)「四半期連結財務諸表の用語、様式及び作成方法に関する規則」第10条の5に該当するものであります。詳細は、【添付資料】3ページ「2. サマリー情報(注記事項)」に関する事項(3)会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示をご覧ください。

(4) 発行済株式数(普通株式)

① 期末発行済株式数(自己株式を含む)	25年3月期1Q	74,947,628 株	24年3月期	74,947,628 株
② 期末自己株式数	25年3月期1Q	228,835 株	24年3月期	228,377 株
③ 期中平均株式数(四半期累計)	25年3月期1Q	74,718,964 株	24年3月期1Q	74,727,866 株

※四半期レビュー手続の実施状況に関する表示

この四半期決算短信は、金融商品取引法に基づく四半期レビュー手続の対象外であり、この四半期決算短信の開示時点において、四半期財務諸表に対する四半期レビュー手続が実施中です。

※業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

本資料に記載されている業績予想等は、現時点で入手可能な情報により判断した予想であり、将来の業績に影響を与える不確実な要因やリスクが含まれています。実際の業績は、今後様々な要因によって大きく異なる可能性があります。なお、上記予想に関する事項は、【添付資料】3ページ「1. 当四半期決算に関する定性的情報(3)連結業績予想に関する定性的情報」をご覧ください。

○添付資料の目次

1. 当四半期決算に関する定性的情報	2
(1) 連結経営成績に関する定性的情報	2
(2) 連結財政状態に関する定性的情報	3
(3) 連結業績予想に関する定性的情報	3
2. サマリー情報（注記事項）に関する事項	3
(1) 当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動	3
(2) 四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用	3
(3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示	3
3. 四半期連結財務諸表	4
(1) 四半期連結貸借対照表	4
(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書	6
四半期連結損益計算書	
第1四半期連結累計期間	6
四半期連結包括利益計算書	
第1四半期連結累計期間	7
(3) 継続企業の前提に関する注記	8
(4) 株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記	8
(5) セグメント情報等	8

1. 当四半期決算に関する定性的情報

(1) 連結経営成績に関する定性的情報

当第1四半期連結累計期間における国内医薬品業界は、本年4月に実施されました薬価基準の改定（業界平均：6.0%、杏林製薬：6%台）等、薬剤費の抑制を目的とした諸施策により、経営環境は厳しさを増しました。ヘルスケア事業では、景気低迷の影響等により縮小傾向にある市場の中で企業間の競争は激化しました。

このような状況下、当社グループは、中期経営計画「HOPE100-ステージ1-（平成22年度～平成27年度）」の3年目として、事業戦略である「ファーマ・コンプレックス・モデル（PCモデル）への取り組み促進」「ヘルスケア事業の拡充と育成」に積極的に取り組み、持続成長とステークホルダーの皆様からの支持・評価の向上に努めました。

薬価改定の影響はありましたが、医薬品事業における売上は新薬事業、後発品事業ともに前年度を上回る実績となり、売上高は254億22百万円と前年同期比6億13百万円（前年同期比2.5%増）の増収となりました。

利益面では、薬価改定の影響、自社製品（海外）の売上減、工場稼働率の低下（前年同期は夏場の電力不足を考慮し、前倒しで生産を実施）、後発薬の売上増等により原価率が約4ポイント上昇し、売上総利益は前年同期に対して6億89百万円減少しましたが、販売費及び一般管理費は研究開発費の減少等により前年同期に対し6億69百万円減少したため、営業利益は40億80百万円（前年同期比0.5%減）とほぼ横ばいになりました。また、経常利益は43億51百万円（前年同期比1.2%増）、当四半期純利益は28億38百万円（前年同期比5.2%増）となりました。

当第1四半期連結累計期間の業績

売上高	254億22百万円	（前年同期比	2.5%増）
営業利益	40億80百万円	（前年同期比	0.5%減）
経常利益	43億51百万円	（前年同期比	1.2%増）
当四半期純利益	28億38百万円	（前年同期比	5.2%増）

セグメントの業績は、次のとおりであります。

①医薬品事業

〔国内新医薬品〕

呼吸器内科・耳鼻科・泌尿器科を中心とする特定領域の医師、医療機関に営業活動を重点化するフランチャイズカスタマー（FC）戦略の推進、人材育成の強化等により主力製品の普及の最大化に努め、売上高は205億86百万円（前年同期比2.5%増）となりました。主力製品では、気管支喘息・アレルギー性鼻炎治療剤「キプレス」、過活動膀胱治療剤「ウリトス」が前年を上回る実績で推移しましたが、気道粘液調整・粘膜正常化剤「ムコダイン」は前年を下回りました。

〔海外新医薬品〕

前年同期は、広範囲抗菌点眼剤「ガチフロキサシン点眼液（導出先：米国アラガン社）」の売上が震災による期末在庫の不足を考慮した前倒し発注により増加しました。当期は、その反動により、売上高は7億45百万円（前年同期比30.5%減）と減少しました。

〔後発医薬品〕

本年度より推進された後発医薬品の使用促進策等により保険調剤薬局への売上が増加すると共に、販社ルート及び他社からの受託生産による売上も増加し、売上高は26億35百万円（前年同期比27.4%増）となりました。

〔一般用医薬品他〕

主要製品である哺乳びん殺菌消毒剤「ミルトン」はプロモーションを強化することで前年同期に対して売上増となりましたが、その他の売上が前年を下回り、売上高は9億53百万円（前年同期比1.2%減）となりました。

この結果、当セグメントの売上高は249億21百万円（前年同期比3.0%増）となり、営業利益は40億84百万円（前年同期比0.7%増）となりました。

②ヘルスケア事業

景気低迷の影響等により縮小傾向にある市場の中で企業間競争が激化し、ナノカプセル技術を応用したスキンケア製品を取り扱うドクタープログラム㈱の売上が前年を下回る実績となり、当セグメントの売上高は5億01百万円（前年同期比19.8%減）となり、営業損失は75百万円（前年同期は28百万円の営業損失）となりました。

当社グループの中核事業における研究開発の状況は、以下のとおりです。

当社グループでは、世界の人々の健康に貢献できる新薬の創製と提供が新薬メーカーの存在意義を高め、持続成長に結びつくと認識に基づき、自社創薬、導入品の開発、既存品のライフサイクルマネジメント（新効能・効果取得、剤型追加）により特定領域において魅力ある製品パイプラインの構築に取り組んでいます。

当第1四半期連結累計期間における国内開発の状況としましては、慢性閉塞性肺疾患治療薬（配合剤）

「KRPA-B1102F」のPhII臨床試験を平成24年5月より、ニューキノロン系合成抗菌剤「KRPA-AM1977Y」のPhI臨床試験を平成24年7月より開始しました。自社創薬活動では、研究領域を呼吸器・泌尿

器・感染症に重点化し、効率的かつ効果的な新薬の創製に努めました。その結果、研究開発費は前年同期に対して4億57百万円減少し、24億74百万円（前年同期比15.6%減）となりました。

また、千寿製薬㈱へ導出している緑内障治療薬「アイファガン（点眼液）」が平成24年5月に同社より新発売されました。

生産部門では、中期経営計画「HOPE100ステージ1ー」における重点課題として、「高品質の製品を安定的に低コストで供給する生産体制の確立」を掲げています。その具体的な取り組みとして、当社はMSD㈱と同社が所有する滋賀工場の資産の譲受及び同工場で製造中のMSD製品の受託生産等に関する契約を平成24年5月に締結しました（詳細は平成24年5月28日公表のプレスリリースをご覧ください）。当社グループは、今後も高品質の製品を安定的に供給できる体制の構築を推進してまいります。

（2）連結財政状態に関する定性的情報

資産、負債及び純資産の状況

当第1四半期連結会計期間末は、流動資産が現金及び預金、有価証券、原材料及び貯蔵品、繰延税金資産の増加、受取手形及び売掛金、商品及び製品の減少等により47億09百万円増加しました。また、固定資産は有形固定資産、投資有価証券、繰延税金資産の減少等により22億49百万円減少しました。その結果、資産は前連結会計年度末と比較して24億60百万円増加し、1,481億33百万円となりました。

負債は、支払手形及び買掛金の増加、短期借入金、退職給付引当金の減少等により、前連結会計年度末と比較して19億90百万円増加し、294億62百万円となりました。

純資産は、利益剰余金、その他有価証券評価差額金の増加等により、前連結会計年度末と比較して4億70百万円増加し、1,186億71百万円となりました。

この結果、自己資本比率は80.1%となり、前連結会計年度末より1.0ポイント減少いたしました。

（3）連結業績予想に関する定性的情報

当第1四半期連結累計期間までの業績は予想の範囲内で推移しており、平成24年5月9日に公表しました第2四半期連結累計期間及び通期の業績予想につきましては現段階で変更はいたしません。

2. サマリー情報（注記事項）に関する事項

（1）当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動

該当事項はありません。

（2）四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用

該当事項はありません。

（3）会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示

（減価償却方法の変更）

当社及び国内連結子会社は、法人税法の改正に伴い、当第1四半期連結会計期間より、平成24年4月1日以後に取得した有形固定資産について、改正後の法人税法に基づく減価償却方法に変更しております。これによる当第1四半期連結累計期間の損益への影響は軽微であります。

3. 四半期連結財務諸表
 (1) 四半期連結貸借対照表

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (平成24年3月31日)	当第1四半期連結会計期間 (平成24年6月30日)
資産の部		
流動資産		
現金及び預金	21,615	26,975
受取手形及び売掛金	45,067	41,425
有価証券	7,372	9,174
商品及び製品	11,016	10,057
仕掛品	632	732
原材料及び貯蔵品	9,089	9,556
繰延税金資産	2,340	3,079
その他	2,774	3,616
貸倒引当金	△58	△56
流動資産合計	99,850	104,560
固定資産		
有形固定資産	14,544	14,405
無形固定資産		
のれん	192	160
その他	653	635
無形固定資産合計	846	796
投資その他の資産		
投資有価証券	26,040	24,322
繰延税金資産	3,144	2,830
その他	1,667	1,646
貸倒引当金	△421	△429
投資その他の資産合計	30,431	28,370
固定資産合計	45,822	43,572
資産合計	145,673	148,133

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (平成24年3月31日)	当第1四半期連結会計期間 (平成24年6月30日)
負債の部		
流動負債		
支払手形及び買掛金	9,043	9,577
短期借入金	3,159	2,939
未払法人税等	2,111	2,082
賞与引当金	3,110	1,670
返品調整引当金	52	42
ポイント引当金	65	59
その他	5,842	9,222
流動負債合計	23,385	25,595
固定負債		
長期借入金	316	240
退職給付引当金	2,949	2,710
役員退職慰労引当金	32	27
その他	788	887
固定負債合計	4,086	3,866
負債合計	27,471	29,462
純資産の部		
株主資本		
資本金	700	700
資本剰余金	4,752	4,752
利益剰余金	112,797	113,021
自己株式	△318	△319
株主資本合計	117,931	118,154
その他の包括利益累計額		
その他有価証券評価差額金	537	742
為替換算調整勘定	△267	△225
その他の包括利益累計額合計	269	517
純資産合計	118,201	118,671
負債純資産合計	145,673	148,133

(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書
(四半期連結損益計算書)
(第1四半期連結累計期間)

(単位：百万円)

	前第1四半期連結累計期間 (自 平成23年4月1日 至 平成23年6月30日)	当第1四半期連結累計期間 (自 平成24年4月1日 至 平成24年6月30日)
売上高	24,809	25,422
売上原価	8,277	9,580
売上総利益	16,531	15,842
販売費及び一般管理費	12,431	11,762
営業利益	4,100	4,080
営業外収益		
受取利息	50	33
受取配当金	60	97
受取賃貸料	66	67
持分法による投資利益	14	17
為替差益	—	33
その他	34	30
営業外収益合計	225	279
営業外費用		
支払利息	13	7
為替差損	11	—
その他	1	0
営業外費用合計	26	8
経常利益	4,300	4,351
特別利益		
固定資産売却益	—	1
投資有価証券売却益	—	4
特別利益合計	—	5
特別損失		
固定資産除売却損	1	0
投資有価証券評価損	7	—
特別損失合計	9	0
税金等調整前四半期純利益	4,291	4,356
法人税、住民税及び事業税	2,318	2,057
法人税等調整額	△725	△539
法人税等合計	1,593	1,517
少数株主損益調整前四半期純利益	2,697	2,838
四半期純利益	2,697	2,838

(四半期連結包括利益計算書)
(第1四半期連結累計期間)

(単位：百万円)

	前第1四半期連結累計期間 (自平成23年4月1日 至平成23年6月30日)	当第1四半期連結累計期間 (自平成24年4月1日 至平成24年6月30日)
少数株主損益調整前四半期純利益	2,697	2,838
その他の包括利益		
その他有価証券評価差額金	176	206
為替換算調整勘定	17	41
持分法適用会社に対する持分相当額	0	△0
その他の包括利益合計	195	247
四半期包括利益	2,892	3,086
(内訳)		
親会社株主に係る四半期包括利益	2,892	3,086
少数株主に係る四半期包括利益	—	—

(3) 継続企業の前提に関する注記

該当事項はありません。

(4) 株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記

該当事項はありません。

(5) セグメント情報等

I 前第1四半期連結累計期間（自平成23年4月1日 至平成23年6月30日）

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位：百万円)

	報告セグメント			調整額 (注) 1	四半期連結 損益計算書 計上額 (注) 2
	医薬品事業	ヘルスケア 事業	合計		
売上高					
外部顧客への売上高	24,183	625	24,809	—	24,809
セグメント間の内部売上高又は 振替高	20	0	20	△20	—
計	24,203	626	24,829	△20	24,809
セグメント利益又は損失 (△)	4,056	△28	4,027	72	4,100

(注) 1. セグメント利益又は損失の調整額72百万円は、主にセグメント間取引消去によるものです。

2. セグメント利益又は損失は、四半期連結損益計算書の営業利益と調整を行っております。

2. 報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれん等に関する情報

該当事項はありません。

II 当第1四半期連結累計期間（自平成24年4月1日 至平成24年6月30日）

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位：百万円)

	報告セグメント			調整額 (注) 1	四半期連結 損益計算書 計上額 (注) 2
	医薬品事業	ヘルスケア 事業	合計		
売上高					
外部顧客への売上高	24,921	501	25,422	—	25,422
セグメント間の内部売上高又は 振替高	2	0	2	△2	—
計	24,923	501	25,425	△2	25,422
セグメント利益又は損失 (△)	4,084	△75	4,009	70	4,080

(注) 1. セグメント利益又は損失の調整額70百万円は、セグメント間取引消去等によるものです。

2. セグメント利益又は損失は、四半期連結損益計算書の営業利益と調整を行っております。

2. 報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれん等に関する情報

該当事項はありません。